

編集後記

「ウェスレーと現代」を特集テーマとする学会誌第3号を、ここにお届けいたします。関わられた方々の労に心から感謝申し上げます。

特集テーマにあわせて、2本の論文と1本の翻訳が寄せられた。更に今回は、氣賀氏によって昨年チェコのプラハで行われた国際学会の講演を特別に掲載させて頂いた。

この8月、第11回 Oxford Institute of Methodist Theological Studies に、岩本会長が参加されている。テーマは New Creation。ウェスレー研究の新しい地平が開かれる思いである。本誌でも、今回のテーマに関わる書物の書評を掲載することが出来た。学会での岩本氏の報告に期待したい。

巻頭言で深町氏がふれておられるように、来年は、ジョン・ウェスレー生誕300年の記念すべき年である。日本においても、学会はもちろんのこと、ウェスレーの系譜に連なる諸教会、諸団体が、思いを一つにしてこの年を覚えることができると願っている。

深町正信氏は青山学院院長としてお忙しい中、巻頭言をお寄せくださった。東方敬信氏は青山学院大学宗教主任、キリスト教倫理研究のお立場から論文をお寄せくださった。清水光雄氏は、本誌編集委員長として、学会の神学的骨格を堅固に保ち続けてくださっている。氣賀健生氏は、キリスト教史学のお立場から、貴重な研究の成果をお分かちくださった。坂本 誠氏は、ナザレン小岩教会牧師、また、神学校で後進の指導に当たっておられる。野村 誠氏は、学会副会長としての重責を担っておられる。藤本 満氏は、学会事務局の要としてご奉仕くださっている。

例年にない酷暑にもかかわらず、早々に尊い原稿をご投函くださり、編集作業がきわめてスムーズに行えましたこと、重ねて感謝申し上げます

(編集委員 林 牧人・日本基督教団洛北教会牧師)